

施設の特徴

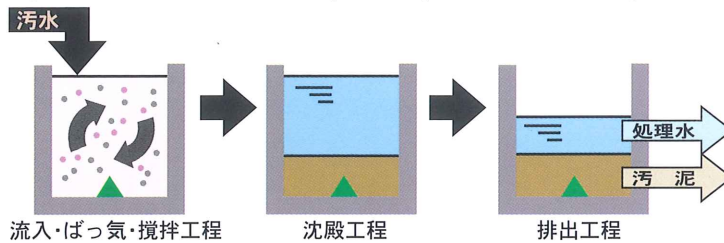
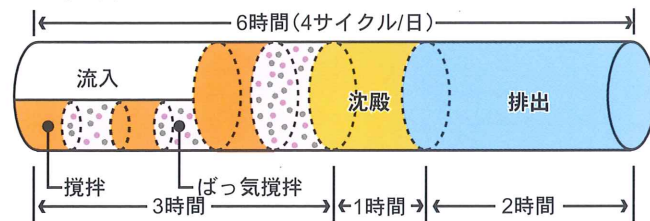
この処理施設には、日本農業集落排水協会が開発した“JARUS-XII G型”が採用されています。処理方式は回分式活性汚泥法で、一つの反応槽(回分槽)で処理操作(流入・攪拌・ばっ気攪拌・沈殿・上澄水排出・汚泥の引抜き等)を、時間内に区分しながら処理するものです。

- ウエイティングモード機構を導入し、流入汚水少量時に回分槽への汚水流入を一定時間遅らせると共に、水位計により水位を一定に保ち、処理水量の安定化と活性汚泥の良好な性状維持を通じて高度な水質が得られるようになっています。
- BOD(有機物)、SS(浮遊物質)だけでなく、T-N(窒素)、T-P(リン)も、安定した処理が可能です。
- 返送汚泥が不要で、膨化現象(バルキング)防止も期待できます。
- SL計と上澄水の排出停止機構(上澄水排出制御)の導入により、汚泥の流出防止をはかり、高度な汚水処理を行うことができます。

JARUS-XII G型の運転工程(例)

(1サイクル当たり)

ウエイティングモード機構
流入停止機構
上澄水排出制御機構



処理施設外観(回分槽)